

第6期 第4回中野区環境審議会

1 日 時

令和5年7月24日（月）午後3時00分～午後5時00分

2 場 所

中野区役所 7階 第8・9会議室

3 次 第

議事

- 1 第4次中野区環境基本計画アクションプログラムの実績について
- 2 脱炭素社会の実現に向けたアンケート調査の実施について
- 3 第6期中野区環境審議会審議概要の報告（案）について
- 4 その他

4 出席者

(1) 出席委員（19名）

大沼会長、田中副会長、村上委員、小澤委員、岸委員、八束委員、須藤委員、
天川委員、新井委員、鶴島委員、森委員、戸辺委員、今井委員、高橋委員、末延委員、
山本委員、星野委員、伊藤委員、寺崎委員

(2) 欠席委員（1名）

館野委員

(3) 事務局（5名）

松前環境部長、永見環境課長、環境課環境企画係職員3名

(4) 審議会出席職員（21名）

企画部企画課長（参事）	森 克久
企画部資産管理活用課長	瀬谷 泰祐
総務部施設課長（代理）	村山 敏明
総務部契約課長	原 太洋
総務部防災危機管理課長（部長）	杉本 兼太郎
総務部DX推進室庁舎管理担当課長（代理）	伊藤 勝也
子ども教育部子ども教育施設課長 兼 教育委員会事務局子ども教育施設課長	藤永 益次
地域支えあい推進部地域活動推進課長	高橋 英昭
地域支えあい推進部すこやか福祉センター調整担当課長	鈴木 宣広

健康福祉部保健予防課長	鹿島 剛
健康福祉部生活衛生課長	秦 友洋
環境部ごみゼロ推進課長 兼 清掃事務所長	阿部 正宏
都市基盤部都市計画課長	塚本 剛史
都市基盤部道路管理課長 兼 都市基盤部道路建設課長（代理）	三浦 真慈
都市基盤部公園課長	村田 賢佑
都市基盤部交通政策課長	宮澤 晋史
都市基盤部住宅課長	落合 麻理子
まちづくり推進部まちづくり計画課長（代理）	渡邊 浩
まちづくり推進部まちづくり事業課長	小倉 芳則
まちづくり推進部中野駅新北口駅前エリア担当課長	小幡 一隆
教育委員会事務局指導室長	齊藤 光司

(5) 傍聴者

2名

5 配布資料

第6期	第4回中野区環境審議会 次第
資料1	第6期中野区環境審議会委員名簿
資料2	中野区環境審議会事務局及び審議会出席職員名簿
資料3	第4次中野区環境基本計画アクションプログラムの実績について
資料4-1	脱炭素社会の実現に向けたアンケート調査の実施について
資料4-2	家庭における省エネルギー等に関するアンケート
資料4-3	事業所における省エネルギー等に関するアンケート
資料5	第6期中野区環境審議会審議概要の報告（案）について
第6期	第4回中野区環境審議会 座席表

○環境課長

定刻になりましたので、第6期第4回中野区環境審議会を開始いたします。本日はお集まりいただきありがとうございます。環境部環境課長の永見でございます。よろしくお願いいたします。

本日の議事に先立ちまして、まず、委員の交代についてご報告を申し上げます。

事業者からの推薦委員のうち、人事異動により交代となった方がいらっしゃいます。公益財団法人東京都環境公社東京都地球温暖化防止活動推進センターの加藤正広委員から、後任の戸辺清文様に、本日7月24日付で交代されました。委嘱状は、既にご本人にお渡しさせていただいております。戸辺委員には、後ほど自己紹介をいただく予定ですので、よろしくお願いいたします。

それでは、これより以降の進行は大沼会長にお願いいたします。

○大沼会長

皆さん、こんにちは。まさに地球温暖化の進展を感じている昨今ではありますが、暑い中ご参集いただきまして、ありがとうございます。

今期最後の環境審議会になりますが、第4回中野区環境審議会をこれから開催します。本日は、館野委員より欠席の連絡を受けております。現時点で出席委員は19名です。定足数は、委員数20名の半数の10名ですので、中野区環境審議会規則第4条第2項の規定に従いまして、有効に成立していますことをご確認願います。

本日の審議会につきましては、17時終了を目途としておりますので、委員の皆様にはご理解とご協力をお願いします。

議事の前に、新しく就任されました委員をご紹介します。新委員の方、お名前と所属団体などの自己紹介をお願いしたいと思います。

では、戸辺委員、お願いいたします。

○戸辺委員

戸辺でございます。前任の加藤が、この3月をもちまして定年退職となりました。この4月に東京都地球温暖化防止活動推進センターの副センター長として着任をいたしました戸辺でございます。1回の参加ということにはなりますが、よろしくお願いいたします。

○大沼会長

ありがとうございました。よろしくお願いいたします。

では、続きまして、事務局の環境部長が異動になりましたので、環境部長より一言ご挨拶をお願いいたします。

○環境部長

この4月より環境部長に就任をいたしました松前と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○大沼会長

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、配付資料の確認を事務局からお願いいたします。

○環境課長

それでは、本日の資料を確認させていただきます。

まず、表に本日の中野区環境審議会の次第、裏側に本日の座席表も付いております。資料1、中野区環境審議会委員名簿。資料2、中野区環境審議会事務局及び審議会出席職員名簿。資料3、第4次中野区環境基本計画アクションプログラムの実績について。資料4-1、脱炭素社会の実現に向けたアンケート調査の実施について。資料4-2、家庭における省エネルギー等に関するアンケート。資料4-3、事業所における省エネルギー等に関するアンケート。資料5、第6期中野区環境審議会審議概要の報告（案）について。

資料については以上でございます。

議事1 第4次中野区環境基本計画アクションプログラムの実績について

○大沼会長

それでは、次第に従って、議事を進めさせていただきます。

議事1番の第4次中野区環境基本計画アクションプログラムの実績についてを行います。環境課長から説明をお願いいたします。

○環境課長

それでは、第4次中野区環境基本計画アクションプログラムの実績について、ご報告をいたします。

まず、アクションプログラムは、中野区環境基本計画に定める5つの基本目標について、具体的なアクションの内容を定めたプログラムでございます。アクションプログラム本体では、令和3年度から7年度の計画期間5年間のうち、初めの2年間をステップ1、残りの3年間をステップ2とし、ステップごとの目標を記載しております。今回の報告資料では、ステップ1の2年間の2年目にあたる令和4年度実績の評価について報告をするものでございます。

資料の最初のページに、A、B、C、Dの進捗評価の方法を記載しています。数値目標が設定されているプログラムに関しては、達成の割合で、数値目標が設定されていないプログラムは、達成の状況で評価しております。アクションプログラムは、全63項目ございますが、評価の結果といたしましては、Aの評価が55項目、Bの評価が2項目、Cの評価が3項目、Dの評価が2項目、評価対象外が1項目がございました。おおむねAの評価でございます。主にA評価以外の項目について、ご説明をいたします。

項目番号が資料3の各枠の左上に振られておりますので、そちらの番号で紹介いたします。

3番、再生可能エネルギー設備等導入支援。蓄電システム導入支援の実績について、年度目標は125件の助成件数を見込んでいましたが、実績は49件でしたので、Cの評価としております。

8番、建物の断熱化促進。高断熱窓・ドア設置補助事業の実施について、年度目標は助成件数が50件でございましたが、実績は21件でしたので、Cの評価としております。

13番、中野駅周辺の駐車環境の整備。年度目標は、運用基準の告示、運用開始でございましたが、審査機関と調整し、物流環境改善に向け、実効性のあるマニュアル整備など、運用開始の準備を進めたということで、Bの評価としております。

15番、区有施設への再生可能エネルギー設備導入の促進。令和4年度は、当初から導入の計画がなかったため、評価対象外としております。

19番、中野区環境マネジメントシステムの推進。年度目標はコピー・プリンタ使用量前年度比10%減でしたが、実績は7.2%減となりましたので、こちらもBの評価としております。

27番、自動回収機によるペットボトル回収の促進。年度目標は新規設置1台でしたが、令和4年度は新規設置がなかったため、Cの評価としております。

47番、生きもの調査の実施。令和4年度は調査を実施しておりませんので、Dの評価としております。

58番、中野区地域環境アドバイザーの派遣。令和4年度は派遣の実績がなかったため、Dの評価としております。

簡単ではございますが、資料の説明とさせていただきます。

○大沼会長

ありがとうございました。進捗評価が書かれた実績になっているということですね。これについて、皆さんから何かご質問やご意見ございますでしょうか。

森委員、お願いします。

○森委員

環境アドバイザーについて、もう少し上手に活用する方法がないのかなと思いました。この会の中でも、啓蒙、教育、区民の理解という話がいろいろな側面から出てくる中で、そういったものを促進していく中でも非常に重要な役割を持っていらっしゃる方たちだと思うので、うまく活用できていないのは大変もったいない、残念なことだと感じました。

○大沼会長

ありがとうございます。まとめてお答えいただきます。

須藤委員、お願いします。

○須藤委員

私も地域環境アドバイザーなので、とても気になっています。地域環境アドバイザーは、地域の活動をしていても、アドバイザーの実績にはなりません。今年も地元の小学校に呼ばれて、アサガオの種の観察や、ヒマワリの種の観察などをやらせていただいています。アドバイザー制度を使ってくださいとはなかなか言いにくい現状があります。校長先生や担任の先生が役所に要望書を提出して受理されないと、アドバイザーが派遣されたということになりません。だから、制度が難しいのかなと感じています。

それから、このアドバイザーのフォローアップ研修が、全然行われていません。自分で切磋琢磨していろいろ行って、お伝えできることは幾つかつくっているつもりなのですが、それでも、最初60人いたアドバイザーが、今、登録しているのは多分10人程度になっているかと思います。フォローアップ研修やアドバイザー間で共有できるようなミーティング、勉強会を行うとよいなと思います。それから、アドバイザーが講座をやっても、参加者にはエコポイントはつきません。だから、参加者にエコポイントを出していただけるようなことにしたら、インセンティブが出るのかなと思います。

○大沼会長

現場の視点から、今二つ質問が出ましたが、いかがでしょうか。

○環境課長

地域環境アドバイザーに関しましては、昨年度の実績がゼロ、令和3年度についても2件で、ここ何年かにわたって、かなり少ない実績になっております。

そういったところもありますので、この制度が、区民の皆様から見て、どのぐらいのニーズがあるのか、アドバイザーの活用など、事業に関して様々な視点から見直していく必要があると考えております。事業の仕方を変えるのか、それとも事業そのものについて見直していくのかなども含めて、区としてこれから検討したいと考えております。

○大沼会長

ありがとうございました。ほかに何かございませんでしょうか。

では森委員、お願いします。

○森委員

今のお答えの印象なのですが、縮小しましょう、もしくはなくしましょうというご意見に近いと感じました。私が言いたかったのはそういうことではなくて、区民の中で環境意識の高い人たちがアドバイザーになろうという意欲を持ってくださったわけで、その方たちがだんだんとやる気を失って、今登録の方が10人程度になってしまっている、その現状自体が非常に悲しい状態です。せっかく意欲を持って、区民に対してもっと啓蒙したい、お互い理解し合って環境意識を高めていきたいと思っている方たちが、やる気を持って活動ができて、そして、そういった方たちが活動することによって、区民の方たちの理解が深まる。そういった活動を広げることが大切だと思います。参加者が少ないから、応募が少ないからなくしてしまおうという方向ではないと思います。それは運営上うまくいっていないということであって、そのニーズがないということでは決してないと思います。

○大沼会長

環境アドバイザーへ、今後どのように、区として協力を求めるのかということをもう一度検討していただければと思います。

ほかに何かございませんでしょうか。

小澤委員、お願いします。

○小澤委員

今ご報告いただいたC評価の事業で、例えば3番の蓄電システムの話や、8番の建物の断熱化促進については、目標の助成件数に至らなかったということで、C評価になっています。なぜ規定の件数に満たなかったのかを分析されているかについてお伺いしたいです。恐らく助成制度が知られていない、または情報として入ってはきても、イニシャルコストがやはり高いので、補助をもらっても、なかなか一般の家庭では手が出ないよという感覚でいらっしゃる方がまだまだ多いのかなという気がしています。

そこで、先ほどのアドバイザー制度の活性化と合わせた事業展開を検討してみたいかがでしょうか。例えば、建物の断熱を進めれば、住宅は快適になるし、エネルギー効率も上がるということは明らかなので、その事実を分かりやすくアドバイザーの皆さんに伝えていただく講座を実施し、その中で助成制度をご紹介するなど、いくつかの事業を統合的に実施するなど、うまく進むようなやり方もあり得るのかなと思いましたので、ご検討いただければと思います。

○大沼会長

ありがとうございます。今のコメントについていかがですか。

○環境課長

ありがとうございます。年度目標は、予算額として設定をしたときの件数でございます。3番につきましては、助成件数125件として予算額を積算していましたが、蓄電システムの設置件数の参考として、太陽光発電システムの設置件数から一定概算いたしました。災害時の需要などからも増えていくという見込みで、125件という予算を立てたところですが、結果的に、新型コロナウイルス感染症の拡大によって在宅時間が長かったことなども影響があったのではないかと思います。また、新築の需要がここ数年、思ったほど伸びなかったことも要因ではないかと思っております。

また、今年度は予算額を少し減らしてはいるのですが、件数としては去年よりも大分伸びているような状況があります。コロナについても徐々に落ち着いてきたことによる経済的な動きや、全体的な関心の高まりなどといったところで、需要も伸びてきているのかなと考えております。

それから、8番の高断熱窓・ドアにつきましても、近隣区のリフォームをした実績などを参考にして、50件ということで予算を組んでいましたが、残念ながら、それほど伸びなかった状況でございます。こちらについては、昨年度からの改善として、補助率を4分の1から2分の1に引き上げたり、区民だけではなくて事業者も対象として追加したりなどの工夫を行っております。結果として、今現在については、大幅な伸びというほどではないですが、昨年度に比べると増えている傾向がございます。今、委員からご助言もありましたけれども、様々周知の方法について工夫をしていければと考えております。

○大沼会長

ありがとうございました。大変貴重なご意見と思います。

ほかに何かございますか。

それでは、須藤委員、お願いします。

○須藤委員

私も、実は家を改築するとき、高断熱窓を設置したいと思って、施工店に「補助金があるみたいだけど使えますか」と聞いたら、「新築だったらもともとの設計図があるので申請しやすいのだけど、改築だと設計図から起こさなければいけないから難しい」と言われました。中身まで見ていないので分からないのですが、申請の仕方というのは、そんなに難しいものだったのでしょうか。簡単に申請して簡単に出るというのものなのですが、適切な手順でもってやれば、速やかに出るようなものなのかどうなのか、私も検証していないので、その辺りを教えていただきたいです。

○環境課長

高断熱窓・ドアを設置した際の申請につきましては、基本的にはご本人から、このようなものを設置したということで申請書に記載をしていただいて、どのような製品を設置したということが分かるような書類などを取りそろえていただいた上で申請していただくことになっております。他の自治体でも、大体同じような形で申請していただいておりますので、特段複雑な申請方法ではないと思っております。

○大沼会長

もう一度、その辺も確認していただければと思います。

ほかに何かございませんか。

八束委員、お願いいたします。

○八束委員

大変素人の質問なのですが、助成金制度全般についてお伺いしたいです。例えば8番の20件（認証件数）や21件（助成件数）、それから、前回の議題にもあったような太陽光発電システムの設置補助事業について、これは数字的には有意の数字のような気がしません。何かポリシーに基づいて、こういう数字を積み上げて増やしていこうとしているのでしょうか。あるいは、これを20件だけやって、いろいろな問題点をあぶり出そうとしているのか、その辺の取組姿勢といいますか、何をどういう方法で考えていらっしゃるのかお伺いしたいです。

○環境課長

こちらの2件は、いずれも近年開始した事業でございます。事業を始めるに当たっては、過去の実績がございませんので、例えば近隣区の実績や、先ほどの蓄電システムでいうと、太陽光パネルの実績などを参考にして、予算を立てたというところでございます。ただ、結果的にこのような実績だったということがございましたので、そういった実績を踏まえて、翌年度以降の予算を組んでいく方法としております。当然、実績と同じ件数を組むだけではなく、拡大していきたい思いはありますので、ある程度拡充する方向で翌年度の予算を組んでいく方法で件数については見込んでおります。

○大沼会長

よろしいでしょうか。ほかにございませんか。

では、森委員、もう一度お願いします。

○森委員

ゼロカーボンシティを宣言しているわけですから、長い目で見ると、最終的にどこに到達したいか、到達したい目標に対して、これからどれだけ加速していかないと目標達成できないかというところで目標を立てることが大切ではないかと思っています。去年実績が満たなかったので、今年は予算が減っていて、縮小傾向にあるのがとても残念だなと思いました。

小澤委員の言われていた、アドバイザーを活用した小規模な勉強会でもっと理解を深めるというのは、本当に素晴らしいアイデアで、こんな考え方もあるのだなと思いました。意欲を高めていくことが大切であって、応募がなかったから縮小していくというのは、どうしても方向が逆なのかなと思ってしまいました。

須藤委員のコメントがあったのですが、施工業者に対しても正しく情報を伝えることによって、新築だけではなく、リフォームのときにも申請ができることを施工業者が認識できるとよいと思います。もし須藤委員と同じような対応を受けている区民の方がいらっしゃるとすれば、施工業者のところで、ブレーキがかかってしまっている状態だと思います。確かにイニシャルコストは少し高くなるけれど、年々の光熱費がこれだけ少ないから、数年後には最初のコストがちゃんと回収でき、その後はこれだけ光熱費が有利になるというようなことが分かれば、興味を持たれる方はもっといると思います。件数が少ない、ではやめていこうではなくて、件数が少ない、何でうまく伝わっていないのだろう。もっとうまく伝えて件数を増やしていこうという方向に考えを変えていただきたいと思いました。

○大沼会長

ありがとうございます。

それでは、星野委員、お願いいたします。併せて後でお答えいただければと思います。

○星野委員

今、大変暑い日が続きますけれども、この都市部の暑い日々が続く中の問題は、やはりヒートアイランド現象です。暑さに対しては、緑というのは大変効果がある一方、なかなか緑を増やすのも大変です。壁面緑化は、場所がなくても建物に設置ができるもので、この事業の中で、学校で緑のカーテンを行っているということですが、環境教育としては大変よいと思います。しかし、実際、緑のカーテンの効果を得るには、学校は夏休みですから、それを実感するということがないかと思っています。それであれば、各家庭でこの緑のカーテンを普及させていくというのが、よいのではないかと思います。実際私も自分のところで行ったら、非常に効果があり、エアコンの使用量も減りました。そういうところで、地域環境アドバイザーや、花と緑の祭典などの出番があるかと思いますが、各家庭で緑のカーテンを普及していけるような取組も検討をお願いしたいと思います。

○大沼会長

ありがとうございます。今のご意見についてお願いします。

○環境課長

緑に関しまして、環境課としては、生け垣を造ったり、保護樹林・樹木に対する助成などを現在行っているところではございますが、今おっしゃっていたような助成などについては実施をしておりません。紹介も含めてということでしょうか。

○星野委員

緑のカーテンの効果を皆さんに知ってもらって、そこで環境アドバイザーや、花と緑の祭典など、そういった方々の出番もあるかもしれませんが、その効果を知ってもらって普及させていくことの検討をお願いしたいと思います。

○環境課長

緑のカーテンの効果についての普及についても、緑を広めていく取組の中で、検討したいと思います。

○大沼会長

ほかに、まだご発言されていない方で、何かございませんでしょうか。

それでは、須藤委員、お願いします。

○須藤委員

今、緑のカーテンの話があったのですが、緑のカーテンもさることながら、今、校庭の人工芝が結構増えてきています。令和小学校の人工芝をサーモカメラで撮影した資料を回覧いたします。人工芝と植栽の部分を比較すると、人工芝の方が高い温度になっています。学校の校庭は、夏休みの間でもずっとそこにあるものなので、地域の場合としては、とても暑い環境を生み出している状況になります。緑化すると共に、校庭の芝生もなるべく人工芝ではなくて普通の芝にしていきたいと思います。

もう一点、ここの評価の中で、駐車場の評価が書かれているのですが、駐車場以外に公共交通はどのようになっているのかは、アクションプランの中では触れていないと思います。公共交通を使うことで、CO₂の削減にもなりますし、中野区辺りだと、自家用車を持っている一世帯あたりの割合が随分パーセンテージが低いとお聞きしているので、駅前の駐車場よりも、バス停やタクシーなど、そういったものを区民がうまく使えるような場所のレイアウトにしてくださることのほうが大事なのではないかと思います。

○大沼会長

ありがとうございます。この件については、何かございますか。

○交通政策課長

交通政策課長の宮澤と申します。よろしく申し上げます。

5ページの10番で、総合的な交通政策の推進について書かせていただいております。今ご質問があったように、公共交通についての記載はしていませんが、区としては、区の交通政策を総合的に進めるために、令和3年3月、交通政策基本方針をつくらせていただきました。現在、交通政策課ではその方針に基づいて、公共交通利用を促進するような計画

づくりや取組を進めているところでございます。その計画の中には、先ほど委員おっしゃいましたとおり、公共交通利用を促進できる施策を盛り込んでいきたいと考えております。ただ、施策の効果の部分でCO₂削減がどの程度できるかについては、なかなか評価が難しいのではないかと感じているところではございます。

簡単ではございますが、以上です。

○大沼会長

ありがとうございました。

それでは、時間の関係で、ほかに質問、意見がある方がいらっしゃる場合があるかと存じますが、事務局までメールなどでご連絡いただけるようお願い申し上げます。

それでは、この議事は終わりにしたいと思います。

議事2 脱炭素社会の実現に向けたアンケート調査の実施について

○大沼会長

次に、議事2番、脱炭素社会の実現に向けたアンケート調査の実施についてに移りたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

○環境課長

それでは、資料4-1、脱炭素社会の実現に向けたアンケート調査の実施について、ご報告をいたします。

まず初めに、調査の目的、こちらは中野区の二酸化炭素の削減ポテンシャル等の分析に当たって、区民及び事業者の取組状況や意識を把握するものでございます。

調査概要でございますが、区民向け2,000世帯、事業所向け500事業所。また、調査期間は8月中旬から9月上旬まで、郵送により配布をいたしまして、郵送及びインターネットにより回答で回収を予定しております。抽出方法は、区民の方については無作為抽出、事業者については総務省のデータベースより抽出をいたします。

調査項目の案として、家庭向けと事業所向けで分かれております。

まず初めに、資料4-2、家庭向けのアンケートをご覧いただければと思います。

I番、日常的な省エネルギーの取組では、問1で例を挙げた上で、その取組状況と今後の意向について伺っております。また、問2では、省エネルギー診断を受けたことがあるかについても伺っております。

II番、家電製品の省エネルギー化については、問3から6にかけて、現在の状況、今後の意向について伺っております。

III番、住宅の省エネルギー化については、問7では給湯器、問8では窓・ドアの断熱化の状況を伺いまして、問9、10では、ZEH（ゼロ・エネルギー・ハウス）の認知度と今後の意向について伺っております。

IV番、移動については、問11で移動手段、問12、13で自家用車の利用状況などについて伺っております。それから、問14でエコドライブについて、問15で買替えの意向につい

て伺っております。

V番、再生可能エネルギー等の利用については、問16で設備の例示をいたしまして、その導入状況と今後の意向、問17、18では再エネ電気プランの認知度と利用状況について伺っております。

VI番、ごみの減量については、問19で取組状況について伺っております。

VII番、ゼロカーボンシティ宣言に関する取組では、問20、21でゼロカーボンシティ宣言の認知度、関心度と、問22でゼロカーボンシティの実現に向けて家庭で取り組むべきこと、問23では中野区役所が取り組むべきことについて伺っております。

最後に、VIII番、あなた自身については、年齢、家族構成、住所地域、直近1年における1か月あたりの電気・ガスの使用状況などについて伺っております。

続きまして、資料4-3、事業所向けのアンケートをご覧くださいと思います。

初めに、I番、省エネルギーに関する取組では、問1で取組の状況、問2で、具体例を挙げた上で取組の状況と今後の意向について、問3、4ではZEB（ゼロ・エネルギー・ビル）の認知度と今後の意向、問5で、環境に関する認証の取得状況について伺っております。

II番、移動手段（自動車）の利用については、問6で自動車の使用状況と所有状況、今後の意向について伺っております。

III番、再生可能エネルギー等の利用については、問7で設備の導入状況と今後の意向、問8、9で、取組の動機と課題、問10で、必要な支援について伺っております。

IV番、ゼロカーボンシティに関する取組では、問11、12でゼロカーボンシティ宣言の認知度や関心度、問13では、その実現に向けて事業所で取り組むべきこと、問14では、中野区役所が取り組むべきことについて伺っております。

最後に、V番、貴事業所については、業種や従業員数、エネルギーの使用状況等々について伺っております。

資料の説明は以上でございます。

○大沼会長

ありがとうございました。

それでは、質疑に移りたいと思います。何か質問やご意見などございますでしょうか。

須藤委員、お願いいたします。

○須藤委員

事業所に対するアンケートですが、このアンケートの対象は、既存の事業所ということですね。今、再開発でジョイントベンチャーやゼネコンが、お仕事を始められていますがそういうところも、ぜひこのアンケートの対象にさせていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○環境課長

現在、事業活動が始まっていない事業所については、取組状況や、車の使用状況、再生

可能エネルギーなどについてお答えいただくのは、難しいと考えております。また、表紙の抽出方法で、総務省の現在把握しているデータベースから抽出する形で行うことを考えておりますので、まだ事業活動をしていない事業所については、厳しいと考えております。

○須藤委員

中野区がゼロカーボンシティ宣言をしていますよ、そういうことを気にしていますよということだけでも伝えていただくのが大事なのではないかなと思うのですが。

○環境課長

アンケート調査では、取組状況などを伺うので難しいかと思いますが、当然これから始まる事業活動の方についても、周知の必要はあると思っております。

○大沼会長

ぜひ中野区の方針を新規事業者の方にも伝えるようお願いいたします。

ほかに何かございませんでしょうか。

森委員、お願いいたします。

○森委員

前回の審議会のときにこのアンケートの実施と、ポテンシャルの分析、今後の計画の立案について、どういったところが請け負われるのですかという質問をさせていただいて、入札を行った結果、業者を決めるというお話でした。私は、アンケートの時期が来たから、取りあえずアンケートを出してしまおうとすると、中途半端な質問を送って、中途半端な答えが返ってきて、実際に具体的な計画を立案しようと思ったときに役に立たない、うまいこと質問しなければ適切な回答が戻ってこないということがあるのですよねという質問をしました。また、環境についての分析や調査を行う実績があり、計画立案の支援や分析結果に対して、意見を持って区役所をサポートできるような事業者を選定してくださいとお願いをしました。実際に選ばれたところは、どういった実績のあるところで、ほかの経験豊富な委員の方たちからも、どこどこでとても実践的な計画を立てることができたとても実績のある事業者ですよ、という情報があると非常にうれしいなと思いました。私がこのアンケートの内容を見ると、何かどこにでもありそうな平凡なアンケートという感じがあります。本当にこれで意味のある、これから中野区が、数値的な目標を設けて分析や評価ができるように、自分たちがどれだけゼロカーボンシティに進めているかということが数値的に計算できるようにするための大切な一歩だと思うので、そこを踏み外してしまわないようにするために、どういったところが選定されたのか、もう少し詳しく事業者について教えていただければと思います。

○大沼会長

今のご質問につきまして、情報開示はできますか。

○環境課長

選定の結果、株式会社創建に委託をしております。他自治体の計画づくりなど様々な事業を請け負っている事業者でございますし、中野区においても、ほかの仕事も請け負った

ことがあるということですので、信頼ができる事業者だと考えております。

○大沼会長

ありがとうございました。私もこのアンケート、ざっと拝見しましたがけれども、今、区民が地球温暖化に対してどのような知識を持っていたり、こういった取組を自発的にしているとか、基本的なところは、網羅されていると思います。こういった情報を使って、中野区がこれからこういったところに力を入れよう、こういった方向でもう少しやっという、ここは割とちゃんとやっているようだからここを伸ばそうなど、いろいろな発見ができるのではないかと思います。恐らく大丈夫ではないかと私は思いますので、どうぞよろしく願いたします。

ほかに何かございませんでしょうか。

今井委員、願いたします。

○今井委員

1点だけ確認なのですが、資料4-2の2ページ目と3ページ目、Ⅱ家電製品の省エネルギー化についての問4で、家電製品が並んでいます、右側のⅢ住宅の省エネルギー化については、問7で給湯器だけ挙げている理由は、何か特別なものがあるのですか。

○大沼会長

この点、いかがですか。今井委員、私もあまり存じ上げていないのですが、例えば給湯器のほか、こういったところがありますか。

○今井委員

問4で、家電製品が並べられていまして、給湯器だけ、別立てで問7で一つだけ項目を立てていますが、それは何か特別な意味があるのかどうかを聞きたいです。

○大沼会長

それでは、願いたします。

○環境課長

住宅に給湯器を入れている理由としては、住宅と一体となって機能する機器ということで、購入をしてコンセントを差し込んで使用する家電とは若干種別が異なるため、別立てで記載をしております。

○今井委員

分類が違うからということですか。

○環境課長

住宅機能の一部と考えても差し支えないのではないかとということで、このような分類にさせていただきます。

○今井委員

分かりました。ちなみに給湯器は、ガス給湯器もあれば、熱（お湯）をためておくエコキュートと呼ばれているような高効率給湯器もあったり、種類があると思います。そこは把握はしなくてもよいのでしょうか。

○環境課長

こちらでは、まとめて給湯器という形で記載させていただきましたが、分けたほうがよいのではないかとのご意見でよろしいでしょうか。

○今井委員

要は、今後CO₂ゼロを目指していくにしても、今、実際どういう使われ方をしているのかというのは、多分把握しておくべきだと思います。そうすると、例えばガス給湯器でも、高効率のエコジョーズが使われているのか、もっと古い、10年よりもっと前の一般的な給湯器が使われているのかでも大分CO₂の排出量が違いますし、エコキュートによっても、運転効率が昔と今だと全然違うので、最終的にゼロを目指すという姿にするには、その辺を把握して、基本データはそろえておいたほうがよいと思いました。

○環境課長

今のご意見を参考にさせていただいて、検討したいと思います。ありがとうございます。

○大沼会長

大変貴重な意見、ありがとうございます。問1に書かれているのは、耐久消費財的なものだと思います。問7からは、いわゆるインフラですので、タイプが違うかと思いますが、今おっしゃった給湯に関するところで、旧型のものなのか新型のものなのかというのは、非常に大きいものだと思いますので、含めるかどうかというのは、検討していただけるようお願いいたします。ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。

村上委員、お願いいたします。

○村上委員

アンケートの内容は、非常に体系的に整理、まとまっているかなという印象だったのですが、基本的にはアンケートをして、区民の方、事業者の方の現状や意向を把握するというのが目的かと思います。質問の中では、今後の家電製品の買替えや、住宅における高断熱化、蓄電池の購入の意向等を聞いているかと思いますので、アンケートとは別に附属の資料で、区ではこんな助成制度があります、あるいは、都だとこんな助成制度があります、といったものがあると、意向のある方の行動促進につながるかと思います。せっかく2,000世帯、500事業所に発送されるので、その辺の情報もつけて調査されると非常に周知の効果もあるかと感じます。もし可能であれば、そういったことも工夫されてはいかがでしょうか。

○大沼会長

それでは、ご検討をお願いいたします。

○環境課長

我々としても、周知の意味もあると思っておりますので、事業の案内も含めて発送する予定であります。

○大沼会長

ありがとうございます。多くの委員の方から意見が出るようになってまいりましたが、ほかに何かご意見ございませんでしょうか。

小澤委員、お願いいたします。

○小澤委員

家庭向けに対して一つと事業所向けに対して一つ、ご意見をさせていただきたいです。アンケートによって、ここが皆さん困っているから、こういう施策を打とうという情報が手に入るとうれいなどと思います。例えば問8-2、窓・ドアの断熱化に取り組みたい意向を確認する質問や、問16の再生可能エネルギーシステムの導入、問18の再エネ電気プランで、利用状況を聞いているのですが、恐らく利用していない方が多くて、その理由、何がネックなのかが分かると、そこが突破口になったりするのかなと思いました。

ただ、それぞれの質問に、やりたくてもできないのは何が課題ですかと聞いていると、とても煩雑になります。問24の自由回答のところに、「今、ゼロカーボンシティの実現に向け、あなたご自身が取り組みたいこと、区役所に取り組んでほしいこと」ということが書いてあるのですが、「あなたご自身が取り組みたいこと、あるいは取り組みたいが難しいと感じていること、そして中野区役所に取り組んでほしいこと」を明記しておく、思っている方は、こういうことをしたいのだけど、ここが課題、困っているということを書いていただけて、とても有用な情報が手に入るかもしれないと思いました。

それから、事業所向けなのですが、一事業者として事業活動の中で実施をするエコオフィス活動的なところがメインになっていて、事業者が提供する製品サービスの変革に関するものではありません。

しかし、ゼロカーボンに向けて、例えばエネルギーの使い方を大きく転換していくためには、需要側の行動を大きく転換する必要があります。ただし、それは役所からの情報提供、普及啓発だけでは全然足りなくて、より消費者と密接な関係を持っている事業者からのアプローチというのがとても大事になってきます。事業活動の中で今ある製品、サービスをゼロカーボンに資するような形に変えていくようなアプローチの仕方を事業者を意識していただけるとよいのではないかと考えています。ここに掲げられている大きな設問にプラスして、事業活動そのもの、提供する製品、サービスを脱炭素型に変えていくためのアイデアや、やろうとしていること、そういったものがあればご記入くださいといったような少し緩やかな質問をつくっておいて、関心のある事業者、動こうとしている事業者を発掘する。発掘した事業者と手を結んで普及啓発をお手伝いしていただくような体制が取れるととても有効なのではないかと思いましたので、ご検討いただけるとありがたいです。

○大沼会長

いかがですか。

○環境課長

非常に具体的なお提案、ありがとうございます。今のご意見を踏まえて、どのような形で反映できるか検討したいと思います。

○大沼会長

ほかに何かございませんでしょうか。今のご意見など、いろいろ伺って、私もなるほどと思いました。アンケートで一番大事なのは、やはり回答してもらうことです。私も何度もアンケート調査を行いましたけれども、こちらが深く突っ込もうとするほど、回答率は下がります。そのバランスというのがあるので、やはりこちらの理想だけでは駄目で、かといって、あまりありきたりの質問だけでは、今後の施策や何かに役に立たないということがあります。その辺は創建さんは何度もやられておられると思いますので、ぜひその辺のバランスをうまくとってやっていただきたいと思います。

もう一つ、中野区で委託されたわけですので、アンケートの結果を見て、こういうアンケート結果が出ましたということを出すだけではなくて、結果から、こういった方向の施策があり得ますということをお出しいただけると、こういった形で環境改善をしていくかというときに、非常に効果的に進むのではないかと思いますので、その辺よろしく願いいたします。ほかによろしいでしょうか。

須藤委員、お願いします。

○須藤委員

事業者と家庭と両方あったのですが、事業者アンケートの一番最後の問14の選択肢15番、環境に関する認証ISO14001と書いてありますが、このほかにも、京都で開発されたKESという認証制度があり、比較的手軽に認証が取れるようです。「ISO14001など」と書くのでしたら、ついでにKESも入れておいていただきたいなと思います。よろしくお願いします。

○大沼会長

その辺も検討していただくということにしたいと思います。

ほかに何かございますか。

森委員、お願いいたします。

○森委員

先ほど大沼会長からも、アンケート実施しました、結果がこれです、提出でおしまいではないことを期待するのご発言があり、私もそう思いました。これを足がかりに、2030年までのゼロカーボンシティの目標、2050年までのゼロカーボンシティの最終的な実施に向けて、何をどれだけやっていかないとそこに達成しないのかという数値的なところも含めて、アンケート結果からきちんと計画が導き出されることを期待しています。家庭ではこれだけやってもらって、事業者はこれだけやって、役所でこれだけやってというようなざっくりとした目標は出しているけど、実際の数字と実際の実施率を合わせたら絶対に達成できないよねとなったら、どこか別のところにもっと頑張ってもらう、または別の政策を新たに立てるなどをしていかないと、7年先のことを具体的な数字もなしにざっくりとだけでは、もうやっていけないところに来ていると思います。本当に具体的に決めていく足がかりだと思うので、ぜひアンケートを実施しました、報告書を出して終わりではない形を私もとても強く期待しています。

○大沼会長

ありがとうございました。

ほかに何かございませんか。よろしいですか。

それでは、これも先ほどの議事と同じで、審議会の終了後に何か質問や意見がございましたら、その場合、事務局までメールなどでご連絡いただくようお願いいたします。

それでは、この議事、脱炭素社会の実現に向けたアンケート調査の実施については、これで終了といたします。

議事3 第6期中野区環境審議会審議概要の報告（案）について

○大沼会長

それでは、議事の3番目、第6期中野区環境審議会審議概要の報告（案）について、議事に入りたいと思います。事務局から資料の説明をお願いいたします。

○環境課長

それでは、資料5、第6期中野区環境審議会審議概要の報告（案）について、ご説明いたします。こちらの資料は、既に各委員の皆様にご確認をいただいておりますので、簡単にご説明させていただきます。

2ページに、はじめにということで審議会の位置づけや任期などが書かれております。

3ページ、第6期の審議会委員の名簿が掲載されております。

4ページから12ページにかけては、第6期の審議会における区からの報告と委員の皆様からの意見の概要についてまとめております。

初めに、4ページから6ページにかけては、中野区における脱炭素推進の検討方針についての報告と、その報告に対する意見の概要。

6ページから8ページにかけては、中野区食品ロス削減推進計画についての報告と、その報告に対する意見の概要。

8ページから10ページにかけては、中野区における脱炭素社会の実現に向けた分析調査等の実施についての報告と、その報告に対する意見の概要。

10ページから12ページにかけては、令和5年度補助金事業についての報告と、その報告に対する意見の概要についてまとめてございます。

13ページ以降でございしますが、参考、審議会の開催状況といたしまして、検討経過、各回の出席職員について記載をしております。

説明は以上でございします。

○大沼会長

ありがとうございました。

ただいまの第6期中野区環境審議会審議概要の報告（案）は、各委員の皆様事前に内容を確認いただきました。皆さんからの修正案は、報告（案）に反映しております。これを持ちまして、第6期中野区環境審議会審議概要の報告とさせていただきますと存じます。

が、よろしいですか。

須藤委員。

○須藤委員

1個だけ入れさせていただきたいのですが、4ページの③の二つ目の○に「エネルギー活用に当たっては、再生可能エネルギーへの転換を進める。」と書かれています。ここにプラスして、今、中野区の場合は、里・まち連携をやっていますので、里・まち連携によるPPAで再生可能エネルギーを確保するというのも入れていただきたいと思うのですが、大丈夫でしょうか。

中野区の中では、再生可能エネルギーの設備は造れず、買うだけということになってしまっているので、それだけではなく、里・まち連携を生かしてPPA、里で再生可能エネルギーをつくって、それを中野区で使っていただくという手法も合わせると、再生可能エネルギーがたくさん使えるのではないかと思います。

○大沼会長

地域との連携をどこかに入れられるとよいということですね。この辺いかがでしょうか。

○環境課長

こちらは、中野区における脱炭素推進の検討方針ということで、区として決定した方針の文言を基本的な考え方ということで記載させていただいております。以下のとおり定めたと書いておりますので、この中に新たなものを追加するというのは難しいかと思えます。

○大沼会長

よろしいですね。

ほかにありませんか。

では、森委員、お願いいたします。

○森委員

(2)のところの脱炭素検討方針に対する主な意見のところに加えてはいかがでしょう。

○大沼会長

主な意見、(2)のところですか。「中野区における脱炭素推進の検討方針に対する主な意見」に様々な意見が列記されておりますが、そこに地域間連携を加えられたらということ。

○森委員

計画の中に書き入れることが難しいのであれば、そちらが適切かなと思えます。

○環境課長

会長のご判断もあるかと思えます。審議概要の報告は、この報告があったときに出た意見をまとめた資料でございまして、そこに今出た意見を入れてよいかどうかというのは、判断があるかと思えます。

○大沼会長

大変貴重な意見かとは存じますが、今、永見課長が説明されましたように、この報告書というのは、これまでの審議会で出た内容をまとめたということですので、今ここでまとめたものにプラスして新たな意見を追加するのは、構成上、必ずしも適切とは言えないと思います。今後、こうした意見を参考にして、次の議論のときに、ぜひ議論の対象にしていければと思います。よろしいですね。

ほかに何かございませんか。お願いいたします。

○新井委員

8 ページ目の(4)の「区の実施する事業に対する主な意見」というところのポツ二つ目とポツ三つ目のところで、堆肥化の話が出ています。ここで意見として出てきたので、ここに入るのはしょうがないと思う反面、僕自身、まだよく分かっていなくて、本当に堆肥化って大丈夫なのですかという思いがあります。ここに書いてあると、これが正しい方向性となったときに、本当に大丈夫かと心配です。

○大沼会長

なるほど。この辺についていかがですか。

○環境課長

こちらについては、今おっしゃっていただいたように、当日に出た意見ということで、概要としてまとめさせていただいたものでございます。この意見の内容について、区として保証するというのではなく、審議会でこのような意見が出ましたというまとめということで捉えております。

○大沼会長

よろしいでしょうか。悩ましいところも確かにあるかと存じますが、出た意見というのをまとめるということでは、やはりこれがまず考えられる構成かと思います。

ほかに何かございますか。よろしいですか。

それでは、もう一度確認させていただきたいと思います。第6期中野区環境審議会審議概要の報告を資料5の案を報告とさせていただきたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。異議ありますか。

○須藤委員

異議というか、付け加えというか、言葉が足りないのではないかなと思います。

○大沼会長

内容についてですか。

○須藤委員

そうです。今ご質問なされたことを聞いて、この文章の内容が、言葉が足りないため、お分かりにならないのかなと思いました。

○大沼会長

文章の内容というと、どの部分になりますか。

○須藤委員

「有機系のごみについても、堆肥化などの燃やす以外の利用方法」と書いてありますが、生ごみについては堆肥化、剪定枝や落ち葉などの有機系のごみについては腐葉土となります。該当箇所の文章では堆肥化と腐葉土が混在した記載となっており、全部が堆肥化のような書き方になってしまっているのが分かりにくいと思います。

○大沼会長

この辺、詳しい方、どなたかいらっしゃいますか。

この部分は事務局と相談して、誤解のないような言葉にしたほうがよいのかどうか相談するということで、ひとまず、この案を報告書としてお認めいただいてよろしいでしょうか。異議ございませんか。

(異議なし)

○大沼会長

ありがとうございます。それでは、この資料5の案を報告書として取りまとめることにさせていただきたいと思います。

では、修正につきましては、事務局に一任するという形を採らせていただきたいと思います。修正後の報告書(案)につきましては、事務局より再度委員の皆様へ送付いたしますので、ご確認をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

議事4 その他

○大沼会長

それでは、議事4番のその他に移りたいと思います。

本日は最後の審議会でございますので、委員の皆さん全員から、これまでの感想などを述べていただきたいと思います。一人1分程度でお願いできればと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、田中副会長、お願いいたします。

○田中副会長

法政大学の田中充です。この審議会では副会長ということで、毎回、どちらかという副会长と共に進行に当たり、補佐をさせていただいておりました。

中野区の環境審議会は、いつも大変活発で、特に区民公募の委員の皆さん、それから、事業者の委員も大変活発にご発言をいただいて、実りある審議ができている印象を持っております。

今日も委員から、幾つかアクションプログラムの実績に対する評価の仕方や、あるいは、それを受け止めての事務局による改善方策のご提示があったり、アンケート調査についても、具体的な修正の考え方がお示しされたりして、大変事務局にとっても役に立つ知見がご披露されたのではないかと感想を持ちました。

事務局においては、こうした活発な委員の意見をうまく受け止めていただいて、ぜひ中

野区の環境行政、環境政策に役立つような、活用できるような、そういう取組につなげていただけるとありがたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○大沼会長

ありがとうございます。

それでは、小澤委員、お願いいたします。

○小澤委員

環境政策研究所の小澤でございます。

私自身もこの審議会に参加させていただいて、田中委員もおっしゃっていましたが、公募区民の皆様や事業者の方からも、日頃の生活や、お仕事をされているご経験の中から、実感の伴うご意見が非常にたくさん出ていて、とても勉強になりました。

また、皆様、大変お忙しいところだと思うのですが、中野区の審議会は、関係する課長さん、係長さんたちがずらっと皆さん、ご参加されています。なかなかご発言の機会もない中ではあると思いますが、それでもお時間割いて出てきていただいている、今、環境政策がどう動いているのか、特に公募区民の方々からのご意見で、区民の方がどういうところに関心を持っているのかというところを割と肌身で感じるような機会にもなっていたかと思えます。ここまで幅広い課から参画をされて審議会をするというのは、あまりないのではないかと思います。この場をつくる事務局の皆様のご苦労もとても大きかったのではないかと思います。そういったお手をかけて審議会を重ねていただきましたことを感謝申し上げます。

私も審議委員として参加をさせていただいた中で、ご縁もいただいて、昨年冬にゼロカーボンシティシンポジウムにも参加させていただいて、まだまだこれから区民の方々に浸透させていくには大きなハードルがあると思っておりますので、引き続き見守らせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

○大沼会長

では、戸辺委員、お願いいたします。

○戸辺委員

中野区の環境審議会、初めての参加ということで、今までのご議論を、先ほど審議概要の報告ということで拝見をさせていただいたところでございます。

東京都地球温暖化防止活動推進センター、愛称としましてはクール・ネット東京ということで、平成20年に温対法に基づいた地域センターということで設置をさせていただいて、15年目を迎えました。ご存じのとおり、東京都も温暖化に対する施策については、HTT（減らす・創る・蓄める）という方向性の中で、昨年度も補正予算をかなりつけた状況の中で、先ほど来、お話のございます、蓄電池やZEB、こういったところでの補助についても展開をさせていただいているところでございます。私どもも温暖化に対する施策についても、中野区さんに適時情報提供させていただきながら、強力に進めてまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

○大沼会長

ありがとうございます。

では、今井委員、お願いいたします。

○今井委員

東京電力パワーグリッドの今井と申します。

私、第2回からの参加ですが、ほかの区のこういった会議にも参加しています。中野区様の場合、やはり先ほども話がありましたとおり、環境とはいいつつも、幅広く議論をされているなというところで、エネルギーに関しては、私も何か発することがあればということで参加しておりました。2030年に向けては、結構長丁場となると思いますので、引き続き一緒にやらせていただければと思います。私ども、電気の安定供給はしっかりやっていきたいのですが、台風や災害があったときには、どうしても電気が一旦止まってしまうこともあるため、やはり自治体の建物だったりお客様側で対策を講じていただくのが一番と思っています。その対策を講じるのであれば、再エネを活用したり、CO₂フリーの機器をいかに活用して、お互いでCO₂フリーを目指していければと思っています。インフラ事業者として何か情報共有するところがあれば、また引き続き行っていきたいと思っています。どうもありがとうございました。

○大沼会長

ありがとうございます。

高橋委員、お願いいたします。

○高橋委員

東京ガスネットワーク東京中支店長の高橋でございます。環境審議会へ参加させていただきまして、本当にありがとうございました。

私、中支店長という立場上、東京都内23区中、11区を所管しておりますので、こういったいろいろな区の審議会等々、かなり多く出させていただいてございます。先ほどいろいろな委員からもございましたが、これほど意見が活発な審議会というのものなかなか珍しい、素晴らしいと思いつつ、これだけ多くの部や課の方から区の職員が出られているというのも珍しいと思っております。中野区様自身のこういった環境に取り組む姿勢というものの本気度をひしひしと感じさせていただきながら務めさせていただいたと思っております。

我々は、ガスのエネルギーを供給させていただく会社でございます。こういった会の中ではご紹介することはありませんでしたが、ガス体エネルギーでも、脱炭素化に向けて合成メタンをつくっていくといったことについても取り組んでございます。脱炭素といった本当に喫緊に解決しなければいけない、いろいろな諸課題に関しまして、エネルギー供給事業者という立場から、これからは皆様と共に協力させていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。本当にどうもありがとうございました。

○大沼会長

ありがとうございました。

それでは、末延委員、お願いいたします。

○末延委員

東京都建築士事務所協会の中野支部の末延と申します。

この2年、環境の目線をいろいろ示唆いただいて、私も大変勉強になりました。中野区の住宅の耐震化ということをお私、この中で一言言わせていただきました。耐震化はどんどん進んできておりますが、東京都が今立ち上げて、予算も獲得していますが、1980年から2000年までは、住宅の耐震性がまだ十分ではないということで、次のステップに今から移行していくこととなります。今度は、その年代の建物のリフォームが進んでいきますが、それは、併せて耐震化だけではなくて、この設備の省エネルギーに向けたいろいろなことと併せてどういうことをしていけばよいのかということをお区は併せて提案をされていくことを望みます。

また、もう一つ、空き家ということでも、中野区さんはしっかりと取組を進められております。環境がどうなっていくかということについて、その目線は大変重要なことになってきて、緑が繁茂してしまっていて大変な状況をつくってしまうのですが、そこをどうしていくかという視点も、この中の取組の一つとして進められているということも耳の一つに入れておいていただければと思います。

○大沼会長

山本委員、お願いいたします。

○山本委員

次世代自動車振興センターというところで、経産省からの受託で電気自動車等に補助金を交付しておる団体です。政策の検討などといったものは独自でやっておりませんので、なかなかお役に立てないかとは思いますが、電気自動車等の導入、普及について、中野区でも2台ご利用いただいておりますということで、補助金等、補助の制度で電気自動車も購入していただける環境、充電器も国が補助金を交付しており、東京都もやっておりますので、だんだん電気自動車が当たり前の世の状況になりつつあるという感触は持っております。引き続きそういった面で、CO₂の削減に中野区さんとしてもご尽力いただければと思います。

そして、私どものホームページに、ほかの自治体でどういう支援制度があるのかということも掲載しております。他自治体でもいろいろなことをご検討もされておりますので、ぜひご参考にしていただければと思います。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○大沼会長

ありがとうございます。

それでは、星野委員、お願いいたします。

○星野委員

中野区商店街連合会の星野です。

中野区商店街連合会としましては、今、60ほど商店街があるのですが、そこに街路灯があります。その全街路灯を東京都の助成金、中野区からも助成していただき、全部LED化できました。おかげで電気代が3分の1ぐらいになり、また、お客様から、ここはLEDの街路灯なのだという、そういうよい意味での好感を得て、商店街としてもうれしいところでございます。

またさらに、最近街路灯の電源を太陽光にすると、また東京都から助成金が出るというところで、そういった環境への取組がお客様から大変よい印象を持っていただいて、好循環になっているのではないかと思います。

あと、ぱくぱくパートナーズのご飯を小盛にしてくださいなどの、食品ロスへの取組も、こういうよい環境への取組をしているお店なのだということで、そこもやはりお客様から支持を得られるところなのではないかなと思います。そういった環境への取組が消費者から支持を得られるというところが大変よいと思っております。

先ほども一つ申し上げました、緑のカーテンなのですが、これは10年ほど前に中野区でも予算をつけて、幾つかの学校で緑のカーテンを設置しました。その一つで私は、七中で全面的にお手伝いして、ヘチマを植えましたら屋上までツルが届きました。ただ、先ほども申し上げましたように夏休みなので、教室への緑のカーテンの本来の効果は、残念ながらなかったかなとそのとき実感してしまいました。緑のカーテンの省エネへの効果は、結構実があります。省エネだけではなくて、まちの中に緑を増やす、そして、遮光効果があるので、部屋の中の蓄熱が防げる、エアコンの利用が減る、さらに、ゴーヤをやればゴーヤが食べられるという大変面白い取組なのではないかと思いました。中野区の場合、家庭での省エネの取組が結構大きなウエートを占めると言われていますので、そういったところの取組もお願いできればと思いました。

先ほどの話に戻りますが、サンプラザでも紙のストローをいち早く使ったところ、お客様から、こういう取組しているのだと関心をもってもらえたそうです。そういった環境への取組が事業へのよい効果があると、ますますよいのではないかと思います。

○大沼会長

ありがとうございました。

寺崎委員、お願いいたします。

○寺崎委員

私、東京商工会議所から出席しております。仕事は建築の関係なので、建設・不動産部に所属しております。このところ環境審議会に参加させていただいて、あまり意見を出してなくて申し訳ないのですが、私の印象とすれば、中野区がゼロカーボンシティ宣言していますが、実際には難しいのではないかと思います。特に、ここ数年、温暖化で相当高温の夏が続いております。非常に熱中症が増えておりますが、先ほど審議の中にありましたように、新築ではなくてリフォームで断熱材を入れる、建具を高断熱化する

というのをもう少し簡単に助成金が出るようにする必要があると思います。あるいは、我々もそうなのですが、専門家、工務店が、それは新築でないと難しいよという話ではなくて、専門家として区に話をして、そういうのを使ったらどうですかと言っていかないといけないと思います。電気代は上がる一方だし、最近のマンションは、結構断熱や冷房も効いているのですが、古い建物で断熱がなかったり、木造住宅ですと、本当に高温で体にも本当に危ない状態が続いていると思っています。一つ一つ、専門の分野、専門のグループで進めていかないと、あと7年といっても難しいという感じはしています。特に、ここ数年、年ごとに高温が続いておりますので、特に建物に関しては、古い建物は高断熱を進めていって、そのためには助成金を区も検討していかないと、今までの新築にばかり助成金をどうですかというよりも、今ある環境で建て替えができない方が多い中で、今後、話の中に入れていかなければいけないのではないかと感じております。

○大沼会長

ありがとうございます。少しスピードアップしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○岸委員

中野区町会連合会から来ております、岸でございます。

家庭における省エネルギー等に関するアンケートというのがございますが、アンケートが終了しまして出そろったところで、まとめたものをまた作っていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

○大沼会長

ありがとうございます。

それでは、伊藤委員、よろしくお願いいたします。

○伊藤委員

中野区造園緑化業協会の伊藤です。

今回、いろいろ参加させていただいて、大変勉強になりました。ふだんは、街路樹や公園、民間の住宅の樹木の剪定等をやっております。今の時期ですと、あまり切り過ぎると緑陰がなくなる、だけでも、来年までもたないからいっぱい切っておいてとか、いろいろなことを想像しながら日々仕事しております。協会で行っていることとして、花と緑の祭典や、剪定教室、先ほどもお話がありました緑のカーテン、このようなものを皆さんに知ってもらいながら、また緑化の啓発に努めてまいりたいと思っています。よろしくお願いいたします。

○大沼会長

ありがとうございます。

それでは、森委員、よろしくお願いいたします。

○森委員

2年間、4回参加することができて、とてもよかったと思います。中野区のゼロカーボ

ンシティ宣言で、中野区も前向きに宣言したと思っただころで、この公募について聞いて、応募をして委員になれてとてもよかったと思います。ただ、委員になったときは、委員になれば2030年までに、または、2050年までに、こうしたら確かに実現できるねという具体的なものを聞けると思っており、その立案に参加できると思って参加したのが、思っていたものと内容が違ったなというところがあります。ただ今日、アンケートの改善案が今井委員や、小澤委員、須藤委員から出てきて、まだアンケート実施前なので、それについては前向きに検討するというお話があり、これぞまさに審議会が行うべき役割の一部なのではないかと思いました。今まで、どちらかというところ、こういったことを立案しました、こういったアクションプランをつくりました、皆さんにはご報告ですというものが多く、もう決まってしまったものに対して報告を受けて、それに対して意見も言うというだけの流れになっていたところが多かったです。今回も審議会の報告を見て、皆さんそれぞれ、私も含めて、言った意見の重要な部分はこの中に載っているので、特に反対することはありませんでした。しかし、辞書で審議会という言葉を見ると、評議をする場、合議をする場、アドバイザーという言葉が出てきて、実際に、具体的に審議会としてはこういった提言を区にしていきましようというところまで到達するのが本来の役割と思って参加いたしましたが、そういった形ではないことに対して、全4回、この考えを繰り返し発言してきました。繰り返しにはなってしまうのですが、やはり、意見としてまともになくても、例えば堆肥化のように、私は堆肥化、とても大切だと思っているので、意見として入れていただいていたのですが、一委員からの意見があったということと、それから、実際に審議会としても区にそういった提案、提言、進めたいと思うのはまた別物で、結局そういったものは一切載っていない報告書になっているので、今後は、審議会の在り方自体がもっと前向きに、物事が決まる前にきちんと審議をして、それを進めることができるような場で、事業者、区民、専門家がいる場で、まさに話し合っ決めて、それが区に対して役に立つ意見として、区がそれを踏まえて実際の行動を取っていくという流れになることを期待したいと思います。

そのためには、会う回数が少ない、会う時間が少ないというのがあります。これは本当に具体的にこうやって会議の場を設けて席を一緒にするというだけではなくと思います。例えば、今はネット上のワークスペースもあります。今度区でこういったアンケートを実施します、こういった報告書を提出します、こういった計画をつくりますという中において、審議委員の皆様、ご意見出し合いましようといったら、そのワークスペースにみんなコメントをしていけば、一人一人が環境課に対してメールをするのではなく、全員がお互いの意見が見える形で、何々委員の言った意見、私も賛成ですという形で、どんどん具体的に進めていけると思うので、そういったIT技術も使いながら、ぜひ来年以降の審議会がもっと実のあるものになってほしいと思っています。少し長くなってしまって申し訳ありませんでした。

○大沼会長

ありがとうございました。

それでは、鶴島委員、お願いいたします。

○鶴島委員

区民公募委員の鶴島です。

私、本業では、産業廃棄物周りで仕事をしております。10年前は、適正処理、産業廃棄物をちゃんと処理しないとイケない、というのがメインの議題ではあったのですが、このところ、完全に脱炭素に向かっています。環境省も産業廃棄物を廃棄物として単に捨てるのではなくて、脱炭素に向けて資源として循環させていく方向性を打ち出しています。国のレベルではそうだなという実感はあったのですが、区でもこういった審議会の中でメインの議題が脱炭素になっているのが、とても勉強になりましたし、刺激になりました。非常に脱炭素は大変だということは、国の色々な動きを見ていて思うのですが、国でできることと基礎自治体ができることは、結構違うと個人的には思います。技術的なブレイクスルーがあって、カーボンキャプチャストレージと呼ばれる、二酸化炭素を捕まえて、地中や海の中に埋めるというような技術革新が進めば、大幅な削減はできるかもしれないですが、区で行うのは無理です。しかし、その中でも、区でネットゼロにしていこうというのは、非常にチャレンジングでとても大変だと思います。正直に言ってしまうと、恐らく2050年までにできないです。できないですが、ではやめてよいかというそういう問題ではなくて、これはあがいていかなければいけないと思います。そのためのロードマップを作るのは、とても大変だと思います。できなそうだなという目標をつくって、実行しても、やはりできないのです。血を流しながら、色んなことを周りから言われながら行っていくのは、めちゃくちゃきつい何十年がこれからもう見えています、その覚悟を持って行っていくしかないんだろうと思っています。他人事みたいに言ってしまってすみませんが、私も産業廃棄物の方では頑張っていきたいと思っています。

○大沼会長

お時間ですので、ここまでお願いいたします。

それでは新井委員、お願いいたします。

○新井委員

新井です。もうリタイアしているので、半分遊んでいますけれども、ここに来まして、はっきり言って、ゼロエミッションだけが環境問題なのかと非常に疑問に思っていたところ。しかし、ゼロエミッションにフォーカスをして、それなりの成果を上げてきているというところは評価したいと思います。それと同時に、鶴島委員もおっしゃっていましたが、達成できないと同時に、何のためにゼロエミッションをやっているのかというと、温暖化を解決したいからです。しかし、少なくとも僕が生きているうちは変わらない、むしろ、悪い方向に向くかもしれないという中で、中野区が一生懸命頑張るところで、当然息切れはします。その時に、一体何を目標にしていくのかというところは、もう少し一緒に考えていかなければいけないだろうと思っています。あまり悲観的にはなってはい

ませんが、うまい循環というのは、エネルギーコストが馬鹿みたいに高くなってきて、結構暑くなってきているなかでも、一生懸命省エネで頑張ろうというところで、たぶん家庭の経済的に、なんとか省エネを頑張らないとどうもしょうがないところまで来ているので、それはよい方向かと思っています。そういうところにインセンティブをもっていかないと、これから続かないだろうと思っているので、そちらも今後考えていただきたいと思っています。

○大沼会長

ありがとうございました。

では、天川委員お願いいたします。

○天川委員

2年間ありがとうございました。私は、企業で環境CSR部からサステナビリティ推進部に所属しておりました。企業であればすぐ経営に繋がるので、ここ5年くらいの間にとても上がりました。部の意見も聞いてくれるようになりまして、行政はどうやっているのだろうととても勉強したいと思い、公募に応募した次第です。

2年間勉強させていただいたら、とてもよいことを中野区はやっているのに、なかなか区民に十分落とされていません。自分自身が勉強することによって、犬の散歩などでも、周りにごみが落ちていたら拾って回ったりもしています。そういう、区民をジャズアップさせる（活気づける）ような、何か方法はないんだろうかというのをこの会に参加させていただいて、つくづく思った次第です。区報が、区長が変わってからカラーになって、とても読みやすくなりました。区報がマンションのごみ箱に捨てられていると、とても残念で、もう一度投函しようかと思うくらい、区報も読みやすくなってよい傾向なのですが、どうか中野区に住む区民一人ひとりが、環境のことを考えていくと、自分たちの暮らしがどれだけよくなっていくのか、それがひいては地球のためになるのかが伝わっていくように、ぜひとも皆様で盛り上げていただければと思っています。ありがとうございました。

○大沼会長

ありがとうございました。

では、須藤委員お願いいたします。

○須藤委員

中野区地域環境アドバイザーの須藤悦子と申します。よろしく申し上げます。今回、アドバイザー枠で入らせていただいている、やはりアドバイザーは必要だなと、中野区は民生部門からのCO₂排出量が多いので、区民の方から一生懸命動く必要があると思っています。リサイクルプラザが昔あったように、環境に資する場所やプラットフォームのようなものがあつたほうが、言葉も通じて、お互い同じように体験ができるので、引き続きアドバイザーを充実させると共に、そういう場所も作っていただけたらと思っています。区役所がZEB Readyになるというお話だったので、環境審議会委員のメンバーに対して、説明会や、見学会でもよいのですが、見せていただきたいなと思います。それから、PDCAサイ

クルというものがありますが、引き続きアンケートを実施して、アンケートの結果で行っていくためには、今が第6期の審議会なので、早く第7期を途切れなく開いていただいて、PDCAサイクルを回していただきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

○大沼会長

ありがとうございました。

それでは、八束委員お願いいたします。

○八束委員

清掃協力会、実質は町会連合会から出ている八束と申します。4回の審議会に出させていただいて、非常に専門的で、多面的で、具体的で、真剣なお話を聞いて大変勉強になりました。私はここに来る前にも、東部区民活動センターで東部の14町会の運営委員会にも携わっていたのですが、町会では防犯や地震等の防災関係、高齢者の見守り、青少年の育成など、非常に広範囲なこと、あるいは、住民の親睦などの憩いについても真剣に考えています。資源ごみの集団回収なども一定程度担っており、非常に大きな活動をしておりますが、考えてみますと、この審議会が出た環境の問題が議題に上がるというのは、年間を通じてほとんどなかったと思います。ゼロカーボンシティを宣言しているという話が出て、大方の方は認識していないのではないかというのが、正直なところでございます。したがって、この審議会での論議と我々町会、住民というところで、ギャップの大きさに改めてびっくりしたということで、これをいかに埋めていくことは容易なことではないと思います。前にも申しましたように、色んなチャレンジを通じて、区民が主体となるという話もありますので、本当に工夫をして考えていかないと、いかに審議会で議論を重ねてもよくなるという感想を持ちました。以上になります。ありがとうございました。

○大沼会長

ありがとうございました。

村上委員お願いいたします。

○村上委員

芝浦工業大学の村上でございます。私は建築が専門で、その中でも省エネルギーを専門としておりますので、色んな形で環境施策に関わらせていただく機会があります。研究分野的には、都心部に関わることも多く、そちらのパブリシティに関していいますと、大手ディベロッパーや、大手の事業所の方々のお考えや意見を聞く機会が非常に多かったので、恐らく同じ23区でも中野区や練馬区、杉並区になりますと、やはり住宅系の影響が非常に大きく、対策として住民の方々の意識も重要になります。中野区の環境審議会にこだわらず、多くの方から意見がありましたように、区民の方々の意識が高く、非常に積極的に意見が出ているということで、新鮮に感じておりました。今後とも色んな意味で、こういった郊外のゼロカーボンシティを実現していくうえで、中野区の取り組みは非常に参考になるかと思っておりますので、引き続き区民の方々の活発なご意見等を積み重ねながら、次の計画が成立してうまく進むことを期待しております。どうもありがとうございました。

○大沼会長

ありがとうございました。皆さんそれぞれのお立場から熱いご意見をいただきました。こうしたご意見が次の環境施策に反映されていくわけですので、事務局にはぜひ積極的に受け止めていただけますようお願い申し上げます。

続いて、事務連絡に移りたいと思います。

今回の議事録は、前回と同様、事務局から委員の皆さんへ案を送付し、ご確認をいただいた上で作成します。ご協力をお願いいたします。

次に事務局からお願いいたします。

○環境課長

2年間ありがとうございました。今いただきましたご意見を含めて、環境施策を進めてまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

○大沼会長

ありがとうございました。

これにて第6期中野区環境審議会を終えるわけですが、私から一言述べさせていただきます。今回は諮問があったわけではなく、何らかの形で答申を出すという形ではありませんでしたが、そのこともあり、多角的かつ活発な意見が出たのではないかと思います。こうした意見を、今回、審議概要の報告という形で提出することができたということは、田中副会長はじめ、ここにいらっしゃる委員の方々、それから丁寧に我々の質問やコメントに、誠実に受け止め反映していただいた事務局の方々のおかげだと思います。どうもありがとうございました。私は中野区の環境審議会に関わらせていただいて、17、18年になるかと思います。最初は、須藤委員もいらっやって、非常に懐かしい思い出であります。その頃と比べると、格段に環境問題や温暖化に対する対策の重要性が、中野区で増しているのではないかと感じております。環境問題は、トップダウンではなく、一人ひとりのアクションの積み重ねが改善につながっていくものですので、こうやって区民の皆さんのお声を聴いて、環境問題を議論できたということは、私にとっても有益なことでした。今後ますます、環境問題の重要性が出てくると思います。今日は、この暑い中歩いてくると、樹木のありがたさを非常に感じます。地球温暖化問題は、二酸化炭素を減らすことが最も重要なことですが、取り組みはますます自然を活用したり、総合的かつ多角的な試みが重要になってくるのではないかと思います。そういう意味で、先程来、ご意見、コメントがありました。中野区さんのように、色々な課が一堂に集まって環境審議会を構成することは、多角的かつ総合的な取組を推進していく上で、極めて原動力になるものではないかと思います。そうしたことをベースに、先進的かつ、日本をリードするような環境施策を創り上げていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

以上をもちまして、第4回中野区環境審議会を閉会いたします。

どうも皆さんありがとうございました。